

京 都 大 学

医療技術短期大学部紀要

第 8 号

1988年

目 次

総 説

- ASANO, K.: A Molecular Mechanism of the Fusion Reaction between
HVJ (Sendai Virus) Envelope and Erythrocyte Membrane 1

原 著

- 池本 正生, 田畑 勝好: 固定化ピルビン酸オキシダーゼ及び固定化乳酸
オキシダーゼを用いた血漿中ピルビン酸, 乳酸の自動蛍光測定法.....19
- 川井 浩, 武部 吉秀, 小西 達郎, 佐藤 隼子: 体格, 体力よりみた
ボート選手的能力水準.....27
- FUKUZAKI, S.: Health Education
—Reform of Nursing Education—.....36
- 菅沼美奈子, 石川 裕子: 入学時における助産婦学生の受胎可能期に
関する認識調査.....40
- 三井 政子, 小木曾みよ子: 助産婦教育における学生の適応
—オーストラリアと日本との比較—.....50
- 石井 誠士: 人間の現在
—哲学的省察—(承前, 四).....59

抄 録

- 第二回京都大学医療技術短期大学部健康科学集談会.....75
- 投稿規定.....80
- 編集後記

正 誤 表

紀要8号の一部に誤植がありましたので、次のように
謹んで訂正させていただきます。

59ページ タイトル中

——精神の根源—— (原稿 四)

73ページ タイトル中

The Presence of Human Being

—Philosophical Meditation—(Continued, part 4)

投 稿 規 定 (昭和60年10月8日改定)

投 稿：投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員（元教職員を含む）が著者、または共著者であるものに限る。

論文の受付：原著（表紙、本文、図、表など）はコピー2部を添え（計3部）、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付けおよび全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

原稿の書き方：原稿は、次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙（原稿第一枚目）の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお、外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に*、**……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録（20行、または200 words程度）および Key words（8語以内）をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。
3. 欧文原稿および英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き（論文の内容上とくに必要な場合は縦書き）原稿用紙に清書する。外国語固有有名詞（人名など）は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。度量衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の

例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言 (INTRODUCTION)、材料 (MATERIALS)、方法 (METHODS)、結果 (RESULTS)、考察 (DISCUSSION) などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

1., 2. ……行の第1字目に記す。

1), 2) ……行の第2字目に記す。

a., b. ……行の第2字目に記す。

a), b) ……行の第3字目に記す。

5. 図 (Figure) および表 (Table) には、それぞれ別の通し番号をつける。図版 (Plate) や写真（原則として白黒）は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は（14×20 cm）以内にまとめる。図は台紙（20×26 cm以下）に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図、表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。
7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を¹⁾, ^{1,3,6)}, ²⁻⁵⁾ のように記す。

雑誌の場合

全著者名、表題、掲載誌名、巻数（必要であれば号数）、頁数（頁-頁）、発行年（西暦の順に記す。雑誌略名は、日本医学雑誌略名表（日本医学図書館協会編）および Index Medicus に従う。

〔例〕

- 1) Sakaguchi, K. & Jameson, E. W. : Two new fleas from Japan. *J. Med. Zool.* 10: 156-162, 1959.
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子: 性周期記録表の試み. *母性衛生* 19(1): 76-82, 1978.

単行本の場合

著者名, (表題), 書名 (版数), (編者名), 引用頁 (頁-頁) または (総頁数), 発行所, 発行地, 発行年 (西暦) の順に記す。

〔例〕

- 1) Wintrobe, M. M. : The erythrocyte. In *Clinical Hematology*, 7th ed., p. 80-220, Lea and Febiger, Philadelphia, 1974.
- 2) Schwarts, T. W. & Tager, H. S. : Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In *Gut Hormones*, 2nd ed., ed. Bloom, S. R. & Polak, J. M., p. 202-205, Churchill Livingstone, Edinburgh, London, Melbourne, New York, 1981.
- 3) Hodgkin, A. L. : The Conduction of the

Nervous Impulse. 108 P., Liverpool Univ. Press, Liverpool, 1964.

- 4) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈, アミラーゼ. 「検査診断マニュアル (第1版)」 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎編, p. 96-99, メヂカルフレンド社, 東京, 1978.
- 5) 城戸幡太郎: 文化心理学の探究, 390 P., 国土社, 東京, 1970.

原稿の枚数: 原著論文, 総説は, 原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は, 手札大 (9×13 cm) が原稿用紙約2枚分に相当する。

校 正: 著者による校正は, 再校までとし, 校正時における内容の変更や追加は認めない。

印 刷 費: 原図の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費は著者の負担とする。

別 刷: 別刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

編集後記

紀要第8号をお届けします。各学科から平均1乃至2編、全部で7編というところがこの2年続き、これで定着したのならばすこし淋しい気がします。紀要を乗り越えて、どんどん他の雑誌に投稿されているのならむしろ喜ばしいことなのかも知れません。いずれにしましても、当初の目的のように短大の研究レベルを向上させるのに役立っていることと信じて精一杯やらせていただきました。今後とも、より良質のより意欲的な論文をお寄せくださることを期待しています。

1988年10月

紀要編集委員長	浅野仁子	
編集委員	福崎哲	石井誠士
	加茂映子	川寄伸子
	神原啓文	木村信子
	小西昭	野村巖
	菅沼美奈子	鈴木康三
	上羽康夫	(ABC順)

京都大学医療技術短期大学部紀要 第8号

Annual Reports of the College of Medical
Technology, Kyoto University No. 8

昭和63年12月25日印刷・発行

印刷 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売通小川東入る
発行 京都大学医療技術短期大学部
京都市左京区聖護院川原町53

ANNUAL REPORTS
OF
THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY,
KYOTO UNIVERSITY

No. 8

1988

CONTENTS

Review

- Asano, K.: A Molecular Mechanism of the Fusion Reaction between
HIVJ (Sendai Virus) Envelope and Erythrocyte Membrane 1

Originals

- Ikemoto, M. and Tabata, M.: Automated Fluorometric Determination of
Pyruvate and Lactate in Plasma Using Immobilized Pyruvate Oxidase
and Immobilized Lactate Oxidase in Column Form.....19
- Kawai, H., Takebe, Y., Konishi, T. and Sato, K.: Physical and Physiological
Evaluation for Oarsman with Different Rowing Abilities.....27
- Fukuzaki, S.: Health Education
—Reform of Nursing Education—.....36
- Suganuma, M. and Ishikawa, Y.: A Study of Student Nurse-Midwives'
Understanding about the Conception Period Conducted on their
Entrance to the College.....40
- Mitsui, M. and Ogiso, M.: Adaptation of Student Nurse-Midwives
to Education
—A Comparison between Australian and Japanese Students—.....50
- Ishii, S.: The Presence of Human Being
—Philosophical Meditation—(Continued, part 4).....59

Abstracts

- 2nd Health Science Meeting in the College of Medical Technology,
Kyoto University75

- Instructions to Authors**.....80

Editorial Notes

Ann. Rep.
Col. Med. Tech.,
Kyoto Univ.

ISSN
0286-7850